

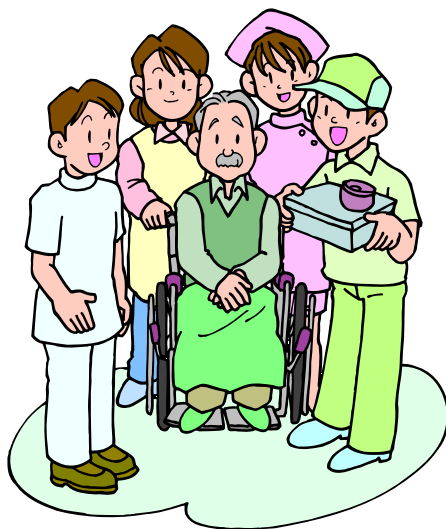


『認知症サポーターについて』

厚生労働省の推計では、介護が必要な認知症高齢者が2012年に462万人とされ、認知症になる可能性がある高齢者まで含めると、65歳以上の4人に一人が、認知症とその予備軍にあたります。

認知症は平均寿命が伸び、超高齢社会となっている今、誰でもなりうる脳の病気です。記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果、周りの人との関係が損なわれ、家族も疲弊し、共倒れしてしまうことも少なくありません。そうならないためには、認知症の人を地域で支えることが不可欠です。年齢、職種などに関係なく、だれもが認知症の人やその家族を支えるよき理解者になることが必要です。

認知症サポーターとは、この認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を暖かく見守る応援者のことで、JAグループでは、全国的な運動として認知症サポーターの養成に取り組んでいます。地域で安心して暮らせる環境づくりに向けて、皆さんも自分のため、家族のため、地域のために、ぜひ認知症サポーターになりましょう。



厚生連健康管理センター

健康指導課長

二宮知子